

～人材育成を目的に補助金を交付します～

ふるさと創生基金事業

市では、人材育成を目的に次の事業に参加する人の経費の一部を補助しています。対象は、市内に住所を有する人と団体ですが、市税などの滞納のある世帯の人、市から補助を受けている団体は対象になりません。

問い合わせ先

企画課

政策企画班(合志庁舎)

☎(248)1813



会終了後1カ月以内の申請が必要です。

●提出先

提出先は、企画課政策企画班(合志庁舎)、西合志庁舎総合窓口、泉ヶ丘支所、須屋支所のいずれかです。窓口で申請書類を受領後、企画課で書類精査し交付の可否について決定します。(窓口での受領をもって補助金交付が決定するものではありません)

額とし、かつ1人10万円以内の額です。

●申請書類

補助金交付申請書・事業計画書・事業に係る経費(明細書)・参加予定名簿およびその他必要な書類

※高校生以下の人が対象となる場合は、保護者が申請してください。補助金交付申請書の様式は提出先窓口にて用意しています。また、市ホームページからもダウンロードできます。

●申請期限

事業実施日までに企画課に申請してください。事業終了後に研修報告書の提出が必要になります。

※過去に補助を受けた人は5年間申請することはできません。



自主調査研究の実施や研修事業に参加した場合

地域の活性化、教育、福祉または産業の振興のため、市民が行なう自主調査研究や研修事業に参加した人や団体が対象となります。補助の可否および補助金額は、市総合政策審議会に諮問し決定します。

●補助金額など

補助対象経費のうち自己負担するもの

①自主調査研究は、1/2以内の額です。

②研修事業は、1/2以内の

③ 海外
個人 20,000円

●申請書類

補助金交付申請書および大会に参加したことが確認できる書類(大会のパンフレットなど)

※高校生以下の人が対象となる場合は、保護者が申請してください。補助金交付申請書の様式は提出先窓口にて用意しています。また、市ホームページからもダウンロードできます。

●申請期限

大会終了後、その年度内に申請してください。ただし、大会終了が3月の場合は、大

補助金交付回数が変わります

本年度より、大会出場に対する同一年度内における同一補助対象者への補助金交付回数を2回までに制限します。

ただし、大会開催年度末の年齢が満20歳以下の対象者と海外で開催される大会はこの制限の対象外となります。

●補助金額

①九州(沖縄県内を除く)個人 5,000円

②①を除く国内個人 10,000円

環境通信

ENVIRONMENT

問い合わせ先 環境衛生課(合志庁舎) ☎248-1202

マダニに注意しましょう

最近マダニにかまれて新しいダニ媒介性疾患の「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」を発病する人が、全国で相次いで確認されています。

特に春から秋にかけて、マダニの活動が活発になりますのでマダニにかまれダニ媒介性疾患を引き起こさないよう注意しましょう。

県内でも、ダニ媒介性疾患の一つである日本紅班熱や、つつが虫病を発病する例が報告されています。外出するときは、ダニ予防に努めましょう。

●予防対策

- ・森林や草地などマダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴などを着用し、肌の露出を少なくすること。
- ・屋外活動後は、マダニにかまれていないか確認すること。

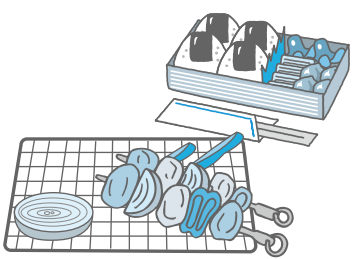
食中毒に注意しましょう

・吸血中のマダニに気がついた際は、速やかに病院で処置すること。
・マダニにかまれて発熱、発疹、倦怠感、頭痛、嘔吐下痢などの症状があった場合は内科、皮膚科を受診すること。

※マダニは、衣類や寝具に発生するヒョウダンなど家庭内に生息するダニと異なります。

運動会やハイキングなど、イベントが多い季節になりました。気温が高くなると食中毒が起こりやすくなります。食品の衛生的な取り扱いを心がけましょう。特に生肉には食中毒菌が付いている可能性がありますので注意しましょう。

●お弁当を作るときに注意
・必ず食べる当日に作りましょう。

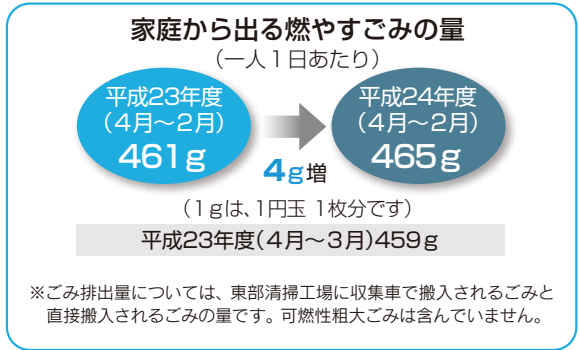


- ・作る前、食べる前には手をよく洗いましょう。
- ・食品は、中心部までしっかりと加熱し、十分に冷ましてから清潔な箸で弁当箱に詰めましょう。
- ・お弁当は涼しいところで保管し、早めに食べましょう。
- ・食べ残しの食品は、思い切って捨てましょう。

●バーベキューをするときの注意点

- ・生肉と野菜は別々に盛りつけましょう。
- ・「焼くときの箸」と「食べるときの箸」は区別しましょう。
- ・肉は中心部まで十分に加熱して食べましょう。

燃やすごみの量を お知らせします



●ごみ減量のポイント

生ごみの約80%は水分と言われているので、10kgの生ごみを焼却するとき、約8kgの水分を燃やしていることになりません。調理する材料は極力濡らさないようにして、野菜などの皮むきは洗う前に行なうと水分がつかまいません。濡れたものは、三角コーナーや水切り器などで、よく水分をきって出しましょう。